

梅雨の水管理 (水稲・野菜・黒大豆)

6月の農作業

梅雨期の高温多湿な気候は、成長期の農作物に病気や害虫をもたらす原因となります。水管理を徹底してより良い農作物作りを目指しましょう。

■水稲



稲はこれから中干しの時期を迎えます。中干しの目的は
①土の中に空気を入れて強い根を作る
②無効分けつや過繁茂の防止
③下位関節間の伸びすぎを抑えて倒伏を防止する ことです。

■中干し開始目安

中干しは、1株の茎数が20本程度になればすみやかに実施してください。

■中干しの期間

期間の目安は4～10日とし、田表面に小さな亀裂が入る程度。干し過ぎて大きな亀裂が入ると根を傷めてしまうので注意しましょう。

■野菜

長雨による過度な水分は野菜の根の伸長をさまたげます。そうすると、茎や枝、葉といった地上部の大きさと地下の根の大きさのバランスがくずれ、病気にかかりやすくなります。多湿に弱いトマト、大根、ゴボウ、カボチャなどは特に排水に気をつけましょう。

対策

①圃場の排水

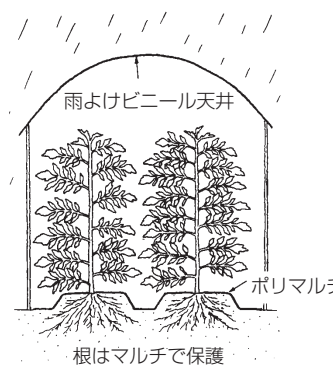
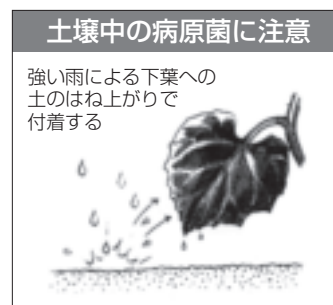
畝間に水が溜まらないように排水溝を設けましょう。排水の悪い畑では高畝にすることも排水を良くする一つの方法です。逆に水分が少ない場合も高畝は水分保持という点ですぐれています。

②土の飛散防止

激しい降雨によって土が飛び散り、葉や茎に付着すると病気になるやすくなります。マルチなどの資材で植物の根元を覆い、土中の菌が葉や茎に飛ばないように土の飛沫を防ぎましょう。

③雨よけ栽培

ビニールなどを使った雨よけ栽培は、特にトマトに用いると病気の発生を抑えるだけでなく食味を良くする効果もあります。



■丹波黒大豆

梅雨時期の排水対策が今後の生育(収穫)に大きく影響を及ぼします。排水管理をおろそかにすると茎疫病や黒根腐れ病等の病害、根の伸長停止などが発生しやすくなります。



対策

①溝をしっかりと通す

畝間に水が溜まると、根が酸素を吸収できず、根の伸長が抑えられてしまいます。過剰な水がすみやかに排水できるよう溝をしっかりと通しましょう。

②畝を高くする

適度な水分を保ちながら乾燥状態となる高畝は、過湿、乾燥の両方に有効な対策です。

裏面は農薬使用の注意点についてを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.242 平成23年6月17日発行

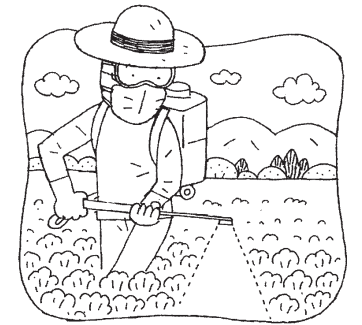
農薬使用の 注意点について

6月の農作業

◆農薬を使用する際は、次のことを守って正しく使いましょう。

1. 農薬ラベルをよく読みましょう

ラベルには、農薬使用基準のほか、使用上の注意事項や環境への影響等必要な情報が表示されていますので、使用前に必ず読みましょう。



2. 農薬の使用基準を守りましょう

農薬の適用内容を確認し、散布できる作物や使用時期、使用方法、使用量または希釈倍率・散布液量、総使用回数等をよく守り、安全・安心な農作物の生産に努めましょう。

3. 農薬は鍵のかかる保管庫で保管しましょう

農薬は専用の保管場所を設け、必ず鍵をかけて保管しましょう。また、除草剤は他の農薬と区別するなどして管理を徹底します。

4. 農薬の調整・散布は、防護具を身につけましょう

防護具(マスクやゴム手袋、めがね、防除衣など)は、いつも使う農薬だから大丈夫、着用が面倒だからなどと考えず、散布方法にふさわしいものを選び、使用者の安全のために必ず着用しましょう。

5. 農薬の散布後について

使用器具は、タンクやホースなどに農薬が残らないようにしっかりと洗浄し、日頃の管理を徹底します。作業終了後は、必ず顔や手足、皮膚の露出した部分などを石鹸でよく洗い、十分うがいをしましょう。

農薬希釈早見表

希釈倍率	25倍	50倍	100倍	500倍	1,000倍	2,000倍	3,000倍	4,000倍
200ℓ	8,000g(ml)	4,000g(ml)	2,000g(ml)	400g(ml)	200g(ml)	100g(ml)	66.7g(ml)	50g(ml)
150ℓ	6,000g(ml)	3,000g(ml)	1,500g(ml)	300g(ml)	150g(ml)	75g(ml)	50g(ml)	37.5g(ml)
50ℓ	2,000g(ml)	1,000g(ml)	500g(ml)	100g(ml)	50g(ml)	25g(ml)	16.7g(ml)	12.5g(ml)
10ℓ	400g(ml)	200g(ml)	100g(ml)	20g(ml)	10g(ml)	5g(ml)	3.3g(ml)	2.5g(ml)

$$1回に散布する量(ml) \div 希釈倍率(倍) = 溶かす薬剤の量(gまたはml)$$

裏面は梅雨の水管理(水稲・野菜・黒大豆)を掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.242 平成23年6月17日発行